

Be（存在）の承認要求

校長 宮 崎 真 彰

いつも始業式では、児童生徒にこんな話をしています。

「今日から3学期が始まりました。学校に来るのが楽しみだった人は？ちょっと嫌だなと思った人は？」と問いかけます。すると、手をあげたり、声を出したり、微笑んだり、目を向けたりと、それぞれの方法で返してくれます。そこで、「学校に来ることが楽しみだった人も、ちょっと不安だった人も、どちらも自分でやろうとしているから感じる事なのです。とても大事な事なのですよ」と話をします。

教師は職業柄、行動や行為の結果や成果を評価します。一方で、生徒たちには、認めて欲しいという承認要求があります。人は、自分を認めてほしいという潜在的要求が他者からの評価に重なることで、自己の存在を意識するのだと思います。

さて、その承認要求には三つあると言われます。その一つが「Do（行動）」です。登校を楽しみにしていたという積極的な行動は評価されやすいのですが、例え気乗りしなかったとしても、自分なりに気持ちを納めて登校したということですから生徒の主体的行動に他ありません。まずは、「Do（行動）の承認要求」に応えたいと思います。

二つ目は「Have（成果）」です。結果や成果に対する評価は、できた、できないに集約されがちですが、結果は本人の努力と周囲の環境や周囲の人たちとの関係の中で生み出されますので、その行動に至った背景に思いを巡らせたいものです。

三つ目は「Be（存在）」です。存在そのものに対する承認要求は、なにより重要なことだと思います。「あなたが居ることそのものが素晴らしいことなのです」「（誰しも）生きていることが素晴らしいのです」といった視点です。始業式で、友達や教職員との久しぶりの再会に気持ちが踊るのは、互いのBe（存在）を確かめあえるからなのでしょう。静まりかえっていた学校が息吹くのは、児童生徒のBe（存在）のエネルギーが集まるからだと思うのです。

ウェルカムモード全開で、児童生徒を出迎える登校風景はもちろんのこと、下校時刻になると、それぞれの教室から聞こえてくる帰りの会の歌にもBeの承認要求に應える姿があります。「♪あなたに会えてほんとに良かった 優しい心ありがとう…」のグッディーグッバイという曲が明日につながります。

3学期がスタートしました。今年もよろしくお願いします。